

## 研究会のあゆみ (2011年5月11日～2012年2月28日)

ワークショップ「冷戦文化研究の動向」：7月11日（水）

講演：アン・シェリフ（オペリン大学東アジア学科教授）

「想像上の戦争——文化にとって冷戦とは何か」（日本語）

コメンテーター：崔 真碩（総合科学研究科）三木 直大（総合科学研究科）

司会：川口 隆行（教育学研究科）

第169回：11月12日（月）

発表者：阪野桂子（総合科学研究科博士課程前期）

「セクシュアリティのモノを介したく発覚——所有物と所有者の立ち位置」

司会：麓侑佳（総合科学研究科博士課程後期）

第170回：12月12日（水）

発表者1：近藤佳那子（総合科学研究科博士課程前期）

「申京淑『離れ部屋』にみる80年代韓国と女工（コンスニ）」

発表者2：廣瀬光沙（総合科学研究科博士課程前期）

「歌うことの身体——歌手・鳳飛飛とその時代」

発表者3：湊上千香子（教育学研究科博士課程前期）

「目取真俊『眼の奥の森』における記憶と翻訳の問題」

司会：三木直大（総合科学研究科）

第171回：12月18日（火）

報告者：王坤（広島大学総合科学研究科博士課程後期）

「『人民日報』における報道から見る日本像——1980年代の対中ODAを中心に」

司会：丸田孝志（総合科学研究科）

シンポジウム「アジアの現代文化と越境をめぐって」：2月10日（日）

報告者1：三澤真美恵（日本大学文理学部）

「越境する映画論：劉呐鷗による“モンタージュ”の実践」

報告者2：山口守（日本大学文理学部）

「ディアスポラとしての母語——チベット作家アーライの漢語文学」

コメンテーター：水羽信男（総合科学研究科）

討論：「モダニズムとポストモダニズムの越境」

川口隆行（教育学研究科）、崔真碩（総合科学研究科）

司会：三木直大（総合科学研究科）

## バックナンバー目次

### アジア社会文化研究 第1号

2000年3月

#### 巻頭言

#### 論説

朝鮮半島の南北分断と「敵対双方」の観光化	崔吉城	1
台湾の祭祀圏と信者ネットワーク	上水流久彦	13
「日語読本」に関する一考察	上田崇仁	37

#### 研究動向

観光人類学研究動向	李良姫	55
-----------	-----	----

#### 書評

西成田豊『在日朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』	福井讓	67
정재정『일본의 논리』(鄭在貞『日本の論理』)	鄭泰峻	77

#### 彙報

### アジア社会文化研究 第2号

2001年3月

#### 論文

朝鮮戦争における国連軍と売春	崔吉城	1
日本植民地支配下における文学言説試論	桂文子	17
現代韓国社会における火葬と「考」の理念	中村八重	41

#### 研究ノート

近代中国のリベラリズム	水羽信男	55
-------------	------	----

#### 書評

佐藤由美『植民地教育政策の研究』	山田寛人	75
------------------	------	----

#### 彙報

アジア社会文化研究 第3号

2002年3月

論文

韓国演戯の展開様相	尹光鳳	1
北朝鮮の対日外交の特質	福原裕二	17
韓国における‘国立墓地’の形成	池映任	47

研究ノート

在日韓国・朝鮮人における差別と国籍	金根五	63
-------------------	-----	----

資料と通信

林亨泰文学会議について	三木直大	81
-------------	------	----

彙報

アジア社会文化研究 第4号

2003年3月

論文

レザー・シャー独裁下の あるリベラルな政治家の役割と限界	吉村慎太郎	1
パキスタンの民族問題に関する一考察	近藤高史	30
在朝日本人二世の 朝鮮・朝鮮人に対する意識形成の研究	曹龍淑	50
1990年前後における台湾での同化教育について	安達信裕	81

研究ノート

フィリピン・ビサヤ民俗社会における 力・主体・アイデンティティに関する予備的考察	関恒樹	105
---	-----	-----

書評

山路勝彦・田中雅一編著『植民地主義と人類学』	崔吉城	122
洪郁如『日本の植民地統治と「新女性」の誕生』	上水流久彦	131
栗原彬・小森陽一・佐藤学・吉見俊哉編 『越境する知6 知の植民地：越境する』	桂文子	135

彙報

アジア社会文化研究 第5号 崔吉城先生退官記念号

2004年2月

巻頭言

崔先生退官記念特集

フィールドノートから	崔吉城	1
先生の学問を回想して	尹光鳳	12
崔吉城先生業績一覧		18

論文

ラジオ「国語講座」と「国語」教育	上田崇仁	31
親族関係の分析にみる訃聞の資料的価値	上水流久彦	44
日朝「平壤宣言」への道	福原裕二	69
韓国国立墓地における戦死者祭祀に関する一考察	池映任	97
チベットの山神崇拜と村落社会	別所裕介	124
Bangladesh のイスラーム聖者廟における 歴史伝承と系譜的事実	外川昌彦	146

研究ノート

1950年代日・米・台関係研究と台湾所蔵資料	前田直樹	167
------------------------	------	-----

研究動向

1940年代中国の都市と知識人	水羽信男	182
-----------------	------	-----

書評

삼인 『재일조선인 그들은 누구인가』 (サミン『在日朝鮮人 彼らはどういう人々なのか』)	福井讓	194
--	-----	-----

卒業生名簿

彙報

アジア社会文化研究 第6号

2005年3月

論文

プロト儀礼の体系	外川昌彦	1
バングラデシュにおける開発援助と伝統工芸	岡田菜穂子	43
中村地平『太陽征伐』論	阮 文雅	75
満州映画「風はこわい」考	崔 吉城	121

研究ノート

パキスタン・スィンド州における 「ムハージル」の変容	近藤高史	137
-------------------------------	------	-----

研究動向

小笠原学研究の現在	李 健志	151
-----------	------	-----

史料紹介

尾道乃木神社に関する覚書	八幡浩二	171
--------------	------	-----

彙報

アジア社会文化研究 第7号  
2006年3月

**論文**

李恢成文学におけるサハリンの風景	金 在国	1
逃げ去る男たち	羅 玠旻	17
「日本語人」の群像	李 郁蕙	38
謝罪行為における差異	鄭 加禎	57
韓国の臓器移植における儒教	中村八重	74
隠岐島の伝承歌謡について	李 建志	92

**研究ノート**

英国教会伝道協会と J.R.ウォルフ に関する初歩的考察	マーティ ン・ウォード	108
---------------------------------	----------------	-----

**書評**

鄭雅英『中国朝鮮族の民族関係』アジア政経学会	権春花	
	李玉丹	125
権恵永『在唐新羅人社会研究』一潮閣	近藤浩一	131
방기중 편『일제 파시즘 지배정책과 민중생활』혜안		
(方基中編『日帝ファシズム支配政策と民衆生活』慧眼)	福井 譲	140

**集報**

アジア社会文化研究 第8号

2007年3月

論文

- |  |       |    |
|--|-------|----|
| チベットの英雄叙事詩「リン・ケサル大王伝」と<br>地域伝統の再編をめぐる一考察 | 別所裕介  | 1  |
| 庄司総一の『陳夫人』に見るハイブリッド文化の<br>葛藤             | 王 暁芸  | 39 |
| 中島敦と朝鮮                                   | 李 月順  | 67 |
| 台湾の古蹟指定にみる歴史認識に関する一考察                    | 上水流久彦 | 84 |

研究ノート

- |                 |      |     |
|-----------------|------|-----|
| 少数民族の集住地域から大都市へ | 金 成子 | 110 |
|-----------------|------|-----|

資料紹介

- |  |     |     |
|--|-----|-----|
| 大森直樹『満州事変』の中国東北教育への影響」と<br>その関連資料をめぐって | 周 軍 | 127 |
|--|-----|-----|

書評

- |  |      |     |
|--|------|-----|
| 土佐昌樹・青柳寛編『越境するポピュラー文化と<br><想像のアジア>』めこん | 大久保豊 | 136 |
|--|------|-----|

集報



アジア社会文化研究 第9号

2008年3月

論説

墓と故郷	越智郁乃	1
武者小路実篤『若き日の思ひ出』論	楊 琇媚	29
中国の語文教育	三野園子	49
アフガニスタン政治と国内統一原理の変転	古川直樹	77

資料紹介

『見聞録』・『聖宗遺草』及び 『夜窗鬼談』と『聊齋誌異』との比較研究	陳 炳崑	115
---------------------------------------	------	-----

書評

松田康博『台湾における 一党独裁体制の成立』慶応義塾大学出版会	川原絵梨奈	127
段瑞聡『蒋介石と新生活運動』慶応義塾大学出版会	水羽信男	133

彙報

## アジア社会文化研究 第10号

2009年3月

シンポジウム「地域研究を問い直す」特集号

(文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム企画)

巻頭言ーシンポジウムの趣旨について

### 講演

グローバル化の時代の地域研究ーその魅力と意義 加藤 博 1

### 報告内容

戦争言説と近代文学に関する一考察 何 資宜 4

フィールドとのかかわり方を考える 光武昌作 9

### エッセイ

「地域研究を問い直す」とはーシンポジウム参加記 水羽信男 16

「地域研究者」の条件 吉村慎太 18

地域研究に対する質問 その1, その2 荒木一視 21

春風の中に坐するが如し 荒見泰史 24

認識の再考ー地域研究を通じた現地との対話 上水流久 37

文学研究あるいは言葉の教育と「地域研究」 川口隆行 40

南アジア研究から見た地域研究の可能性 外川昌彦 44

時間・民俗との出会い 丸田孝志 49

シンポジウムを振り返って 三木直大 52

### 論説

「墓の移動」を通じた「沖縄」研究の再考 越智郁乃 57

「竹島」に見る韓国・韓国人イメージ 福原裕二 73

### 研究ノート

「新台湾人」の議論と政治意識をめぐって 川原絵梨 103

### 書評

高橋伸夫『党と農民ー中国農民革命の再検討ー』 丸田孝志 115

研文出版

### 彙報

## アジア社会文化研究 第11号

2010年3月

尹光鳳先生退職記念号

尹光鳳先生業績一覧		1
神楽との出会い	尹 光鳳	5
<b>論説</b>		
舜子変文類写本の書き換え状況から見た 五代講唱文学の展開	荒見泰史	12
中国都市部における民族教育に関する一考察	金 成子	37
“変”から“変文”へ	高井 龍	58
芥川龍之介の「河童」に見る「狂気」	陳 玫君	83
ダライラマ14世の平和プランとチベット高原域の “文化的領有”をめぐる検討	別所裕介	108
国共内戦期冀魯豫区の大衆動員における 政治等級区分の民俗	丸田孝志	133
<b>研究ノート</b>		
曆と韓国	崔 吉城	162
『清平山堂話本』から探る敦煌変文の 後世の話本小説に与えた影響	徐 銘	167
<b>書評</b>		
張涌泉主編『敦煌經部文献合集』（中華書局）	荒見泰史	180
李建志『日韓ナショナリズムの解体』（筑摩書房）	中村八重	185
「20世紀中国」政治史一新刊2冊の紹介と書評	水羽信男	189
尹光鳳『日本神道と神楽』（テハック社）	尹 祥漢	195
<b>彙報</b>		

アジア社会文化研究 第12号

2011年3月

論説

- バングラデシュの手工芸にみる社会関係  
—手織布ジャムダニを事例に— 岡田菜穂子 1
- 少年中国主義の成立と課題 永見和子 31
- 新文化運動期、王光祈の社会改革論  
西サハラ問題の変容と国際社会—アフリカ最後の  
「植民地」の自立と共存に向けて— 部谷由佳 59

研究ノート

- 対中ODAを巡る日本・中国の認識と中国報道 王 坤 81

研究動向

- 「台湾人」意識の成立をめぐる 川原絵梨奈 97

研究報告

- 近代中国「民間社会」史再考—日本との比較から 水羽信男 107

小特集

- 中国現代詩研究の現在 三木直大 119
- 艾青と何其芳を考えると 宇田 禮 123
- 武田泰淳と木島始の幽霊が出てくる

彙報

アジア社会文化研究 第13号

2012年3月

シンポジウム「資料から問い直す地域研究のあり方」特集号

(文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム企画)

巻頭言ーシンポジウムについて	高井 龍	
<b>シンポジウム発表報告</b>		
川端康成「禽獣」論	王 薇婷	1
資料翻訳の問題点	コヴァレンコ、オレクサンドル	2
<b>シンポジウム論説</b>		
墓と人のエージェンシー	越智郁乃	13
モノの力と感情の記憶	楊 小平	33
大学における障害者学生修学支援と ICT 活用についての 人類学的研究の可能性	岡田菜穂子	57
<b>シンポジウム・コメンテーター報告</b>		
「もの人類学」から地域研究を問い直す	崔 真碩	75
「もの」研究の新展開に向けて	床呂郁哉	81
<b>シンポジウム参加院生報告</b>		85
<b>シンポジウム関連研究会報告</b>		
原発に抗する地域社会	中原聖乃	95
インターフェースのデザイン	遠藤潤一	103
<b>論説</b>		
ルドルフ・シュタイナーの人間観と宗教性	西井美穂	107
芥川龍之介「南京の基督」にみる「怪奇」	陳 諭霖	131
呂赫若作品における「家」の変容について	羅 玠旻	149
<b>研究ノート・翻訳</b>		
台湾と中国の用語差異	柯 惟惟	173
新たに確認された「王陵変文」の一残簡 Victor H. Mair (高井 龍 訳)		189
<b>集報</b>		

# 『アジア社会文化研究』投稿規程

## 1. 『アジア社会文化研究』の目的

『アジア社会文化研究』はアジア社会文化研究会において発表・議論された成果をもとに編集される論文集であり、2000年3月の創刊以来、これまで年1回のペースで刊行されている。同研究会は、アジア研究にかかわる者が専門分野の枠をこえて学際的に討論し研究の幅を広げることを目的に、広島大学大学院総合科学研究科に所属する教員および大学院生を中心に設立・運営されている。

## 2. 投稿資格

原則として本研究会の目的に適い、本研究会にて発表した者とする。なお編集委員会（ならびに院生の場合には当該指導教官）が質的に掲載に十分値すると認めた論文の投稿申し込みを受理し、掲載の可否については厳正な査読制をしることとする。

## 3. 論文集完成までの過程

- (1) 投稿希望者は8月31日までに所定の用紙（「投稿申込書」）で申し込むこと（電子メールによる添付書式も可）。
- (2) 投稿希望論文の提出期限は11月1日までとする。
- (3) 投稿希望者は本年度の研究会において、投稿論文の主題に沿った発表を少なくとも一度以上行わなければならない。ただし海外居住者や遠隔地に居住する者、また長期に渡り海外での調査活動に従事している場合などは、編集委員会での審議を経たのちに、レジュメ等の提出で発表に代える。
- (4) 発表と投稿論文の提出を終えた者から随時、査読制による審査を受け、そこでの結果により、掲載の可否が決定される。
- (5) その後、編集作業（投稿論文の加筆・修正を要請することがある）を経て、翌年の3月末日に刊行する。

#### 4. 執筆要項

(1) 掲載論文の種類および分量

- ①論説：16000～20000 字程度（400 字詰め原稿用紙で 40 枚～50 枚程度）
- ②研究ノート：12000 字程度（同 30 枚程度）
- ③研究動向・調査報告・資料紹介等：8000 字程度（同 20 枚程度）
- ④書評：4000 字程度（同 10 枚程度）

(2) 書式等

原則として「ワード」横書き（34 字×30 行）で、本文を記述する言語は日本語に限る。なお、引用など必要に応じた他言語の使用は認める。なお、規定の書式から著しく外れたものは投稿を受理できない場合がある。

(3) 原稿の提出方法と提出先

投稿希望者は上記①～④に該当する原稿を「ワード」またはテキストファイルで作成し、編集委員会宛に以下のものを提出すること。

- (a) 電子メールの添付ファイルもしくは CD-R など
- (b) 印刷したもの 1 部（直接・郵送いずれも可）

なお投稿申し込みが受理された場合、投稿者は編集委員会の指示に従うものとする。

#### 5. 書式の設定

(1) フォント・文字サイズなど

タイトル	MS ゴシック フォントサイズ 11
章見出し	MS ゴシック
	1. 2. 3. ... (全角, フォントサイズ 10)
節見出し	MS ゴシック
	(1) (2) ... (半角, フォントサイズ 9)
本文	MS 明朝 フォントサイズ 9
数字・英文	章, 節見出し以外は全て「Century」
脚注	文末脚注 脚註番号は「アラビア数字」で設定

参考文献	必要に応じて「脚注」の後に別途に掲載
連絡先	論稿末尾に執筆者の電子メールを記載（希望者のみ）

## (2) ページ設定

「ワード」：ツールバーの「ファイル」→「ページ設定」にて設定

文字数と行数	余白	用紙サイズ
文字数 34	上 30mm	用紙サイズ A4 印刷の向き 横
行数 30	下 30mm	
フォント MS 明朝	外 20mm	
フォントサイズ 9	内 25mm	
段数 1	とじしろ 0	
横書き	ヘッダー 15mm	
	フッター 17.5mm	
	印刷の向き 袋とじ	
	とじしろの位置 横	

## 問い合わせ（編集委員会）

アジア社会文化研究会代表：三木直大（広島大学大学院総合科学研究科教授）

naomiki@hiroshima-u.ac.jp

アジア社会文化研究会：owner-asiasyabunken@freeml.com



## 『アジア社会文化研究』（第 号）投稿申込書

年 月 日

名 前	フリガナ
	日本語名
	英語名
所 属	
連 絡 先	住 所
	電 話
	E-mail

1. 投稿を希望する原稿の種別（○をつけて下さい）

論説		研究 ノート		研究 動向		資料 紹介		書評	
----	--	-----------	--	----------	--	----------	--	----	--

2. 原稿題目（仮題目でも可）

日本語（主題と副題）
英語（主題のみ）

3. 原稿要旨（400～600字程度で記入して下さい）




## 執筆者紹介（掲載順）

丸田孝志 広島大学大学院総合科学研究科准教授  
中岡志保 京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員  
アン・シェリフ オベリン大学東アジア学科教授  
越智郁乃 福井大学産学官連携本部 博士研究員  
廣瀬光沙 広島大学大学院総合科学研究科博士課程前期  
水羽信男 広島大学大学院総合科学研究科教授

## 編集後記

昨年度は、大学院総合科学研究科の「リサーチマネージャー養成プログラム」の助成を得たシンポジウム「資料から問い直す地域研究のあり方」が院生主体で開催され、もりあがりを見せたアジア社会文化研究会ですが、今年度は一転して研究会をになう院生諸氏の代替わり期に直面することになりました。「研究会のあゆみ」からも、そのことがうかがわれるでしょう。また、広い意味での地域研究を志す、より若い世代の院生が、修士課程在籍者を中心に減少している傾向があるようです。それは、総合科学研究科だけの現象ではなく、現在の日本をどこか反映しているようにも思えます。

今年度は、外部の著名な研究者に来ていただいて、二つの小さなシンポジウム形式の研究会も開催しました。「冷戦文化研究の動向」と「アジアの現代文化と越境をめぐる」が、それです。そのときの報告をもとに論文を寄稿して下さったアン・シェリフ先生は、オクラホマ州出身。専門は日本近現代文学・文化。著書の *Japan's Cold War : Media, Literature, and the Law* (Columbia University Press, 2009) では、黒澤明、原民喜、石原慎太郎、さらには映画『ゴジラ』や伊藤整の『チャタレイ夫人の恋人』の日本語訳など多彩な話題が、50年代日本文化と冷戦の問題として、展開されています。現在は、戦後広島メディアと文化に関する研究に取り組み、勤務校であるアメリカのオベリン大学では「核時代の文化」の講座を受け持っておられます。もうひとつのシンポジウムも、グローバリズムとナショナリズム、そのはざまに生きる知識人の越境・交渉の問題を、日本植民地期の台湾から現在の東アジアの問題に至るまで、幅広い文化論的視点から議論するものでした。今後もこうした研究会を、教員の側もできるだけ、院生のみなさんに提供していきたいと考えています。

この『アジア社会文化研究』は、外部の研究者も含めた査読制をしき、教員が編集委員となって刊行する研究誌ですが、査読制は院生諸氏が切磋琢磨し、自らの研究能力を向上させていく手助けのためのものでもあります。多くの院生のみなさんが、この研究会に積極的に関わって下さることを、願ってやみません。

(三木)

編集委員：三木直大（編集委員長）

大久保豊 高井龍 廣瀬光沙 楊小平

荒見泰史 高谷紀夫 崔真碩 外川昌彦 長坂格 丸田孝志

水羽信男 吉村慎太郎

アジア社会文化研究 第14号

2013年3月28日

アジア社会文化研究会

広島大学大学院総合科学研究科内

Eメールアドレス：asiasyabunken-owner@yahoogroups.jp

HP アドレス：http://ajiashakaibunka.blog42.fc2.com/

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号

編集委員会連絡先

広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部 三木直大

電話082-422-6356（三木研究室）

Eメールアドレス：naomiki@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号